

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成28年5月分）

【景況感】

景気回復に足踏み感が見られる。

【製造業】生産、受注は概ね横ばいの状況が続いている

○製造業全体では、輸入原料の高騰によるコスト高が続いている。中国経済の減速や熊本地震の影響により、輸送用機械関連で一部弱含みも見られるが、受注や生産は概ね横ばいで推移している。ただし、先の突発的な事故や自然災害に対する今後の影響が依然として懸念されている。

【地場産業】依然として厳しい状況が続いている

○依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いているものの、生産に落ち着きを見せ始めた企業も一部でみられる。

【個人消費】消費の回復状況に頭打ちの感が見られる

○個人消費は、雇用環境の改善により、売上が前年を上回る小売店も見受けられ、足下の消費支出はプラス圏で推移しているものの、実質賃金はほぼ横ばいで推移していることから節約志向が続き、消費の回復状況は鈍く弱含んでいる。

【観光】インバウンドは好調を維持

○観光では、宿泊施設、観光入込客ともに、前年に比べ好天に恵まれたことと、インバウンドの増加が寄与したことにより、前年と比べ増加している。

【雇用】一部の業界において人手不足が発生している

○雇用面では、学卒者の就職内定率や有効求人倍率等の関連指標は、右肩上がり推移しており、総じて県内の雇用情勢は回復基調にある。一方、製造業の一部や建設業、非製造業では、人手不足に陥っている企業が見受けられる。

【設備投資】投資実績は減少傾向も、投資意欲は変わらず

○設備投資の目的のうち、今まで据え置かれていた工場・機械等の「補修・更新」が増加し、「生産能力拡大・売上増」、「合理化・省力化」といった前向きな設備投資が減少。今後は、生産能力拡大・売上増、省人化に向けた設備投資が期待される。

【資金繰り】資金繰りは改善傾向

○企業の資金繰りは、年度末要因直後の月であることから、新規融資実績は例年同様、減少に転じたものの、借入難易度も緩やかながら着実に改善している。